

2020 年度度事業報告書

理事長 田中 一雄

インダストリアルデザインは産業社会のモノづくりをととして、広く国民生活の質の向上に資するものである。公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会は、広く社会全般と連携しながら、社会的要請に応え、国民のための社会貢献を継続的に推進するものである。その活動として以下の 6 つの事業を対象としている。まず、「資格付与事業」はデザイナーの社会的信頼性を担保し、適切に機能する職能を保証する。「セミナー事業」はデザイナーに継続的な学習を促し、常に時代に即応した役割を果たすことを目指す。「体験活動事業」は、インダストリアルデザインに対する社会の理解を深め、社会教育を実践する。「ミュージアム事業」は、インダストリアルデザインを歴史的に記録するとともに、優れた製品の顕彰を通じて明日への展望を示す。「調査・研究事業」は、社会に貢献する専門性と客観性を深めることを進めている。「交流事業」は、広く国内外の組織と連携することによって、国際社会に貢献している。2020 年度はコロナ禍に翻弄された 1 年ではあったが、粛々と以下の 6 事業を行なった。

1、資格付与事業

＜国民から信頼される職能の確立＞

資格付与事業はプロダクトデザインの普及を目指し、次世代を担うデザイン学生、一般社会人、プロのデザイナーに向けた PD 検定事業を実施している。2020 年度は、PD 検定の運営体制の移管構築とプロダクトデザイン改訂版の編集出版に注力できたことで次年度への整備が進んだ。

(1)PD 検定事業

2020 年度の受験者数は 197 名で前年比 89%、合格者数 127 名(合格率は同 64%)、2 級検定対応の問題集は 164 冊(同 116%)を頒布した。検定業務の体制移管に合わせて、PD 検定のホームページを再整備した。

(2)関連出版事業

PD 検定2級向けの「プロダクトデザインの基礎」(緑本)は出版して5年半、昨年度より販売数は減少したが教材本として定着してきており、2年分 2500 冊の増刷を行なった。

「プロダクトデザイン」(赤本)は出版して 11 年(9 刷:2 万冊)、IT 化や技術の発展、デザイン業務の拡がりに対応すべく執筆編集を進めてきた「改訂版」を3月に出版した。

(3)事業基盤の整備

事業当初から検定事務局と検定試験を外部委託してきたが、PD 検定事務局は JIDA 事務局に移管、検定試験は CBT-Solutions 社へ移管して直接の委託契約とした。また経済産業省の「後援名義使用」の申請は、11 月に「承諾」が得られ、今後の広報活動に効果が期待できる。

2、セミナー事業

＜専門的知見の充実による社会貢献の推進＞

各委員会やブロックにおいて様々なセミナーを開催し、インダストリアルデザインの普及啓発を推進する計画だったが、コロナウィルスの影響によって中止やリモート方式への手法変更を余儀なくされ、全体としては活動が縮小された。主な実施セミナーは以下の通り。

(1) 美的集団向けデザインセミナー(継続事業・第 2 期 4 回シリーズの残り 2 回分)

(2) 東大阪市デザインシンキングセミナー(継続事業・第 2 期)

- (3) 伊・トリノ IAAD 最新デザインおよび教育動向・夏季研修プロジェクト報告セミナー
- (4) 第 33 期報告会 JIDA インハウス女性デザイナー研究会報告セミナー
- (5) 第 94 回勉強会 最新 3D プリンタで生み出す CMF モデル造形と製品活用
- (6) 第 95 回勉強会 これからの紙使い・和紙使い
- (7) JIDA 塾「上質な暮らし、豊かな時間」生活をクリエイティブに彩る暮らし方セミナー
- (8) デザイナー井戸端会議 これからのデザイナーの在り方について、討論形式のセミナー
- (9) TASK2020 都内4区による中小企業支援事業で、デザイン活用セミナーを実施

3、体験活動事業

＜次世代人材の育成による国家基盤の充実＞

主に若手デザイナーやデザイン系の学生を対象とした体験活動は、人材育成と交流に大きな役割を果たしている。

(1)電車ワークショップ

3 歳から小学生を対象にした電車をつくるワークショップ。9 月 6 日に東京ミッドタウン・デザインハブにてリアル開催、26 名の親子が参加した。

(2)国際デザインワークショップ(ISDW)

国際的視野を広げるために毎年、韓国インダストリアルデザイン協会(KAID)、台湾工業デザイン協会(CIDA)と共同で国際学生デザインワークショップを開催している。また、インダストリアルデザインの現場を見学するなどの学生交流会も行っているが、2020 年度は Covid 19 の影響で、全て中止となった。

4、ミュージアム事業

＜デザインを通じた日本文化の高度化＞

デザインの優れた製品を選定、顕彰し、図録を作成、無償配布するセレクション事業と、それら優れた製品を収蔵・管理し、展示することでデザイン啓蒙に繋げるミュージアム事業がある。

(1)デザインミュージアムセレクション Vol.22

2020 年度で 22 年目となるセレクション事業は、コロナ禍にもかかわらず例年通り実施された。リモートを中心とした数回の選定会により、ゴールドセレクション 5 点、特別選定 2 点を含む合計 56 点が選定された。そのすべての内容を 148 ページに及ぶ図録に編集収録し、2,300 部の印刷、国内外の関係機関、図書館、大学、会員などに無償配布した。

(2)デザインミュージアム

長野市信州新町に設営している JIDA デザインミュージアム 1 号館「ミュゼ・蔵」では、協会が所蔵している優れたデザインの製品群から 30～60 点程度を常設展示する活動を継続している。2020 年度もセレクション Vol.21 選定製品の巡回展を企画していたが、コロナの影響で 4 月から閉館となったまま現在に至っている。六本木の JIDA デザインミュージアム in AXIS と大阪の JIDA デザインミュージアム イン 関西は通年を通して展示を実施した。

(3)パッケージデザインパビリオン

隔年で開催される東京パック 2021 内にて、パッケージデザインパビリオンを今年度も JIDA が企画運営を行なった。2021 年 2 月 24 日(水)～26 日(金)、東京ビッグサイト西館。

(4)ギフトショー

コロナの影響で秋のショーは中止となり、2 月に春のショーが実施された。2021 年 2 月 3 日(水)、4 日(木)、5 日(金)、東京ビッグサイト南展示棟南3にて2コマで JIDA ブースを出展。

5、調査・研究事業

＜専門性の深化及び客観化＞

材料や加工技術、表面処理に関する調査・研究を行ない、標準化を目指したサンプル開発・頒布事業を継続して行なっている。また、子どもや高齢者の傷害事故などの社会課題解決に向けて、産総研や消防庁などとの共同研究も行なっている。

(1) JIDA STANDARD SAMPLES の頒布

2020 年度の頒布実績は全 41 冊。内訳は「1」:14 冊、「2」:4 冊、「3」:8 冊、「4A」:5 冊、「4B」:6 冊、「5」:4 冊。他に「4A」「4B」から 1 点ずつ各 50 枚の別注制作も行なった。その他サンプルは全 14 冊を頒布。内訳は「アルゴ」:10 冊、「パントン」:1 冊、「RAL」:3 冊。

(2) KIDS DESIGN TOOLS の頒布

2020 年度の頒布実績は全 16 セット。内訳は、子どものからだパスデータ集:6 冊、2.5Dキッズパーツ:2 セット、2Dキッズモデル:3 セット、3Dキッズモデル:5セット。これとは別に子どものからだ図鑑:3 冊となった。

(3) 産総研、消防庁との共同研究会

「傷害予防のためのデータ活用に関する検討委員会」として、最近の事故の事例や分析の報告をもとに事故予防に関する共同研究会を、例年通り6回行なった。

(4) ベランダ等高所からの子どもの転落を予防するプロジェクト

三菱財団社会福祉事業・研究助成のプロジェクト(主宰:NPO 法人セーフキッズジャパン山中龍宏理事長)に参加し、月1回ペースの合同ミーティングに3名で参加した。

(5) 高齢者ハンドブックの制作(追加)

昨年度、産総研から受託した高齢者ハンドブックの制作事業に追加・修正が発生し、2020 年度に新しいデータを追加した新ページと修正ページの編集を行なった。

(6) 日本弁理士会意匠部会との共同研究によりロイヤルティー契約書式を完成させた。

6、交流事業

＜社会貢献及びデザイン価値の拡充発展＞

国内外の他団体と交流し情報交換を行ない、協力関係を構築することで、より高度な情報を得ると同時に、グローバルな発信を行なうことができるのが交流事業の目的である。

(1) Asia Design Assembly(ADA) 韓国:KAID、台湾:CIDA との国際交流事業

3か国代表者会議をオンラインにて3回行なった。ADAが主催する国際学生デザインワークショップ(ISDW)は2020年8月に日本で開催する予定だったが、2021年8月に延期となった。

(2) CHINAPLAS 協力事業

中国深圳で開催されるプラスチック関連の展示会イベントへ、出展者募集と講演者派遣の協力をおこなっていたが、今年度の開催は次年度4月へ延期となった。

(3) 日本デザイン団体協議会(D8)との交流

●代表者会議への参加:正副理事長と事務局長が数回の会議に参加した。2020 年度は特に連携強化を推進するため、理事長会議を複数回行なった。

●日本デザインミュージアム設立準備委員会への参加:JIDA からはデザインミュージアム委員会のメンバー数名が参加し、活発な活動が行なわれた。

●デザイン保護研究会への参加:JIDA からは職能委員会のメンバーが参画している。

●広報委員会への参加: JIDA からは広報担当理事が参加し、D8 からの発信強化のための数回の会議に出席した。

(4)パッケージデザインパビリオン

隔年で開催される日本包装技術協会主催の東京パック 2021 に今回も協力し、JIDA がデザインコーナーであるパッケージデザインパビリオンの企画運営を行なった。コロナ禍にも関わらず、2 月 24 日～26 日の期間で開催された。例年同様、同パビリオン内に日本弁理士会ブースを設け、知財相談の窓口とした。

7、その他共益事業

<会員扶助及び会員支援>

(1) DP ホットライン

主にフリーランスデザイナーを対象にした会員向け知財相談窓口「DP ホットライン」を通年開設し、会員からの知財相談に対応している。2020 年度も意匠登録の申請に関する相談や、知財に関するトラブル等が寄せられ、専門家が気軽に対応した。

(2)会報誌

毎年一度、外部向け年間活動報告書として「アニュアルレポート」を編集・印刷し、広く一般に発信している。2020 年度も 2019 年度のリポートを 8 月に 800 部印刷、内外の関係各所や全ての会員に配布した。

(3)その他

オンライン会議は勿論、オンラインイベントも当たり前になりつつある中、基材やソフトも含めた ICT の強化が必須となり、費用も人材もその方面に多く費やされた。総会の開催方法もハイブリッドと称し、会場出席者とリモート参加者、さらには動画視聴者がリアルタイムで共有できるシステムを活用した。事務局もテレワークを推進し、50%以上の在宅率を実現した。